

## 令和5年度第3回与謝野町公共施設等マネジメント推進委員会 会議報告書

日 時 令和5年10月24日(火) 午後7時00分～午後9時00分

場 所 岩滝保健センター 会議室1・2

出 席 (敬称略)

川勝 健志(ワライ)	青山 公三(ワライ)	杉岡 秀紀(ワライ)	青木 一博
岸部 敬	山崎 哲典	佐々木 和代	西川 明宏
安岡 孝子			

欠 席 (敬称略)

足立 経彦
-------

事務局

企画財政課 山口課長	同 成毛補佐	同 廣野補佐	同 渡邊係長

説明員

子育て応援課 坪倉課長	産業観光課 市田課長	産業観光課 大上主幹	農林環境課 三田課長
教育委員会 中上教育 次長兼学校教育課長	教育委員会学校教育課 吉田課長補佐	総務課 柴田課長	総務課 芦田主幹

傍聴者 2名

会議の日程

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 子育て施設(認定こども園・保育所)の進捗状況について
4. 産業観光施設及び農業施設について
5. 子育て施設(学校)について
6. 役場庁舎について ⇒次回検討
7. その他

## 会議の経過

### (1. 開会)

(事務局) 皆さんこんばんは。ただいまから令和5年度第3回目の与謝野町公共施設等マネジメント推進委員会を始めさせていただきます。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中ご出席いただき誠にありがとうございます。本日、司会をさせていただきます企画財政課長の山口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。着座にて進めさせていただきます。

画面をご覧くださいましたとおり、本日委員長、●●委員、●●委員におかれましては、オンラインでの参加ということになっております。それから足立委員におかれましては、欠席のご連絡の方をいただいております。

まず会議に先立ちまして、事前にお配りしております会議資料の方はご確認いただいているということで、1件差し替えがございまして資料を2-1で修正している部分につきましては、先ほど説明させていただきましたとおりグレーに塗りつぶしております。委員の先生方におかれましては、メールで送らせていただいておりますので、ご確認いただけたらと思います。

本日からボリュームが多くなっておりまして、簡単に進め方だけ説明させていただきます。

まず子育て施設につきましては、前回第1次答申を踏まえた町の考え方をお示しさせていただきました。その後の進捗状況という形でのご報告ということでございます。

2点目の産業観光・農業施設につきましては、各施設の進め方について説明させていただきたいと考えております。

それから3点目、子育て施設の第1次答申での学校の部分につきましては、前回のこども園の部分とかぶるんですけれども、改めて第1次答申に対する町の考え方ということでご説明をさせていただいた上で役場庁舎に係る第1次答申に対する町の考え方を説明させていただくということで、大変ボリュームが大きくなっておりますが、よろしくお願いいたします。

それでは次第に基づきまして、委員長から開会のご挨拶よろしくお願いいたします。

### (委員長)

皆さん、こんばんは。オンラインでの出席となりまして大変申し訳ございません。

大学の方も後期の授業が始まりまして、なかなかスケジュールがタイトになっており、そちらにたどり着くのがちょっと間に合わないということでオンラインでの参加ということにさせていただいております。

今日は●●先生と●●先生と3名がオンラインという形で、うまくコミュニケーションが取れない場面がもしかしたら出てくるかもしれませんが、何とか議事進行させていただきたいと思っておりますので、ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

先ほど事務局からのご説明がありましたように、次第をご覧くださいますと、結構今日は議事が多く用意されておりまして、1つ目は進捗状況、そして2つ目については新規の案件ですので、まず全体的な方針をご説明いただいた上で、質疑は少しさせていただきたいのですが、あくまで本日のメインは子育て施設(学校)ということになるかと思います。

もちろん、役場庁舎についても大事な議事ではございますけれども、特に三つ目の学校について中心的に議論をさせていただきたいと思っておりますので、少しその辺りのバランスもちょっと考えながら議事をさせていただきたいと思っておりますので、こちらにつきましてもご協力いただければと思います。

(事務局)

ありがとうございます。それでは委員長よろしく願いいたします。

(委員長)

再び次第の方に目を向けていただきまして議事の(1)子育て施設の進捗状況について、こちらの方は認定こども園、保育所ということになります。まず事務局の方からの説明をお受けしたいと思えます。よろしく願いいたします。

(子育て応援課長から説明)

(委員長)

ありがとうございました。

我々の委員会での検討結果を受けて、現在のご説明のあったような形で各所に対応いただいているというご説明でございました。進捗状況、最新の動向も含めてご説明いただいた訳ですが、委員の皆様の方から今のご説明内容についてご質問やご意見等がございましたら、ご発言いただきたいと思いますけれどもいかがでしょうか。

(●●委員)

ご説明ありがとうございました。スケジュールもきっちりとされてて、説明会の手順もいいのではないかなと思って聞かせてもらっております。

資料の2ページのところに書いてあるのですが、町における幼稚園の需要が年々低下しているということなのですが、これは何か原因がありましたら教えていただきたいのと、それから常任委員会で説明、一般質問においても答弁ということでしたけれども、何か特に議会の方からご意見とか質問とか、この場で公表ができるようなものがありましたら教えていただきたいと思えます。

(子育て応援課長)

町における幼稚園の需要が年々低下しているという判断の基になることでございますけれども、町立の幼稚園は三河内幼稚園はもう数年前に廃園をしております、幼稚園機能としましては岩滝地域のかえでこども園と加悦地域のつばきこども園の2園で幼稚園の枠といいますか、1号認定のお子さんたちをお預かりしてるんですが、もうこの利用が数人といった状況になっておりまして、2園合わせて合計3名の方が1号の対象として通ってきていただいておりますけれども、これによって町立のこども園に対しての幼稚園枠の需要が年々低下しているということの判断をさせていただいており、本町としての幼稚園だけの機能を持った幼稚園を整備することは考えていないということでございます。

9月13日に議会の一般質問の答弁という形で、整備計画地を石川保育所周辺にさせていただくという答弁をさせていただき、町長が決定しました整備計画地を公表したということなんですけれども、これは一般質問に対する答弁でございます、そこに対しての意見はこれからたくさん出てくるのではないかと考えておりますが、その場では一般質問の答弁をさせていただいたということでございます。

(●●委員)

幼稚園の需要が今の現状がそうだとということで、岩滝もこども園ができましたし、加悦もできましたということで、残っているエリアにおいて、幼稚園の需要がなくなったのかなと今お聞きしてたんですけれども、幼稚園は幼稚園の良さがありますし、何かが原因なのか、例えば子どもを預かってもらって、とにかく仕事もあるので長く預かっていただきたっていうことで、保育所という選択をされるのか、僕は幼稚園に行ったんですけど、社会的な環境がそういう風になっていってるのかなと思ったりするので、そのあたりが感覚的に教えていただけたらと思ったのと、議会の方の答弁は公のやり取りですのでいいんですけども、常任委員会の方で何か特にお聞きができるような内容のものがありましたらということですが、なければいいです。

(子育て応援課長)

常任委員会につきましては議会の方で聞かせていただくのでということで、他の質問をいただいたと思っております。

幼稚園についてですけれども、認定こども園の特徴としまして、幼稚園を希望されるお子さんも保育所を希望されるお子さんも、こちらが同じ場所で同じ教育保育が受けられるという部分でございます、幼稚園を希望されてる方も認定こども園に通っていただける、保育所を希望されるお子さんについても、認定こども園に通っていただける、等しく同じ教育保育が受けいただけるというところが良いこととして挙げられるのかなと思うんですけれども、ちょうど今の保育所への説明に回っておりまして、保育所の保護者さんにつきましては、一体認定こども園が現在の保育所とどう違うのかということをとっても心配されていたり、気にしておられるところがありますので、認定こども園だったらどういう風になるのか、どう変わっていくのかということ、説明に加えさせていただいている部分があるんですが、時間帯につきましては、例えば3歳から5歳児さんは1号認定のお子さんとは2号認定のお子さんが同じ教育保育を受けていただくことができますよということを今申し上げたところなんですけれども、時間帯につきましては違っておりまして、1号認定の幼稚園を希望されたお子さんにつきましては、9時から14時までが教育の標準時間とさせていただいております。

2号認定の保育短時間を希望されておりますお子さんにつきましては、8時から16時まで、保育の標準時間を希望されております2号認定のお子さんにつきましては、8時から19時まで認定こども園の方でお預かりをさせていただいているということになります。

(●●委員)

はい、わかりました。

(委員長)

はい、ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

(●●委員)

2つだけ質問です。1つは広報についてです。本件、説明会が10月から始まっていると思いますので、広報に関しても非常に丁寧にやっていただいている、という印象を持っています。一方で、私存じ上げなかったのですが、新聞報道で財政の話が出たという話がありました。この計画素案を拝見いたしますと、財政計画案の作成は11月からとなっていて、今後また詳細は詰めていかれるだろうと思いますが、説明会では必ず出る質問だろうと思いますので、そのあたりの平仄、すなわち、しっかりと説明会のタイミングで財政の部分についても情報提供できるような段取りで進められるのかどうかについて確認をさせてほしいのが1点です。

もう1点は名称です。今いただきました資料1-2ですが、こちら「野田川地域こども園」となっています。これまでも「のだがわこども園」という名前で運営されてきた施設がありますので、名称的には少しややこしいと思います。親御さんはおそらく差別化ができると思いますが、もしかすると保育に関係しないような世代の方々は、「のだがわこども園を無くして、野田川地域こども園を作る」というと、わかりにくいのではないかなという部分があります。名称が混乱を生むのではと。今後、言葉の工夫とか、対処策等々もしあればお知らせいただけるとありがたいと思います。

(企画財政課長)

まず財政につきまして、9月定例会におきましても、常任委員会でも財政計画ではなくて財政シミュレーションという形で提示をさせていただきました。新聞には金額だけ出しましたが、こちらにつきましては今の財政計画にしっかり基づいた形でのシミュレーションを出させていただきます。今後しっかりと議会とも対話をする中で、財政シミュレーションを修正する、財政計画についても一定修正をしていくような形で説明をしてまいりたいと考えております。

(子育て応援課長)

名称についてでございます。実は今、●●委員の方からご指摘いただくまで特に分けたりとか、分かりやすいような区別をつけていたということがございまして、これまでの説明会につきましては、区長さん方であったり、実際に石川保育所、山田保育所、のだがわこども園に現在通っておられるお子さんの保護者の方を対象にさせていただいております。ここの混乱はなかったんですけども、今後利用されます更に小さいお子様の保護者様についてであったり、住民の方についての説明の中では、一定もう少しわかりやすい区別のしやすい名称に配慮が必要だなということを今気づかせていただきましたので、今後考えていきたいと考えます。

(●●委員)

はい、よろしく願いいたします。

(●●委員)

石川保育所の周辺ということで、町長がここに行くということをおっしゃられたということなんですけども、山田か石川か市場かいうところだったんですけども、石川周辺に決まったという決定的なポイント

というのはどんなことだったのかなと。やはり山田保育所はまず、無理だなと思っていたんです。線路と住宅地に囲まれていたので、これ以上、土地を広げることはもうできないなど。山田はこれは無理だなと思っていたんですけども、石川の場合は面積を広げることができるということが決定的なポイントだったのかなと思います。それをお聞きしたいのと、それからもし決まっても、やはり数多く会議をしていただいて、納得のいく園を作っていただきたいと思っております。何がと言いますと、石川は交通量が多いのと、川から水が溢れることがよくありましたので、そういうところを徹底的に会議していただいて、安全な園を作っていただきたいと思っております。以上です。

(子育て応援課長)

ありがとうございます。3園のうちのどこにという検討の中で、今山崎委員さんからありましたとおり、用地の確保の見込みについて、また交通事情について、あと災害について、その他ということで、大きくは3つの観点から検討を進めさせていただきました。この中で石川につきましては、現在の園の敷地は狭いですが、その周りに取得可能な、拡張可能な土地があるということで、これが石川に決まった大きな要素であることは確かでございます。

あと交通事情とか災害等についても検討させていただく中で、今のご心配の声をいただきましたように、石川保育所周辺につきましては浸水の心配がある地域でございます。ただ、その浸水の心配のある地域にどのようにこども園を建てていくかということは今後しっかり検討させていただきまして、実際に今は天気予報等で事前に分かることが多くなったとはいえ、急な浸水等に対応するために、どのようなこども園を建てていったら良いのかということの皆様のご意見をいただきながら、しっかりと検討させていただきたいと思っておりますし、石川地域につきましては、国道沿いでございまして便利は良いですが、交通に対する心配もこれからたくさん出てくると思っておりますけども、ここにつきましても、国道からの出入口につきまして、どのように作っていくかということを考えさせていただきまして、皆様に納得いただけるような説明をさせていただき、ご納得いただけるような園ができるように今後考えていきたいと考えております。

(●●委員)

先程提案説明いただきました野田川地域の子育て支援策については、昨年度委員会として、町内の3箇所の保育所・認定こども園を視察させていただきまして、園舎建物の老朽化という面で早急な解決が必要だという認識のもとに、本年3月の第1次答申に速やかな解決策を求めた訳ですが、これに対して半年余りでここまで具体化された。スピーディーであり、また具体的なスケジュールも明確にされているという点について、第1次答申をしっかり受け止め、正面から検討されていることに対して敬意を表しておきたいと思っております。

ただ、この中身についてですが、保育所の場所の問題や施設の定員等の規模、内容については子育てにとって大変重要な要素であり、事前の十分な検証や、内部検討が必要だということを第1次答申にも書いてますが、今回の提案内容は、野田川地区内に認定こども園を1カ所整備する、それしか選択肢がない提案になっている。

これは3、4年前の第3者委員会の諮問・提言に、その辺りが強く強調されたにもかかわらず、この3、4年間の中で十分検討された記録がなかったために、第1次答申にそういった表現が入った訳ですが、もうそれしか選択肢がないのかどうか。

本日配布資料3ページの上から6行目に、「なお入所定員希望者が200人を大きく超える場合は、」という形で3園のうち1園を期間限定で継続する方法もありますと書かれてる訳ですが、新聞報道では180人程度の定員のこども園と書かれていて、この200人という数になるかどうかというのは、それ以降直近の子どもの出生数とか、今の全体の動向とか、その辺りから判断すべきだと思います。仮に200人を超えなかったとしても、3カ所の内の石川保育園の規模を少し大きくして整備する、この点は私もいいと思うんですが、野田川地区内の3箇所を1箇所に統合することがいいのかどうか?野田川地域にかつては5つの公立保育園があって、小学校単位に、身近なところに保育園があり、親が子どもを徒歩や自転車でも送ってきた。ところが1ヶ所になりますと、経済的な事情で車が持てない方は、自転車で子どもを乗せて、大変長い距離を危険な道路を通りながら子供を送迎しなくてはならない。雨の日もあり、風の日もあり、雪の日もあり、そういったことを考えたときには、本当に1園でいいのだろうか。この広い野田川地域の中では、大規模な1ヶ所と中規模な1箇所の2ヶ所の保育園を配置する考え方は、この資料を読む限りでは、そういったことは必要ありませんというふうに言い切っている訳ですが、やはりそのあたりの検討や、住民またこれから保育園を利用されようとする方々の声とか、そういったことを本当に十分意見を聞きながら検討されたのかどうか。

老朽化した建物の解決を急がなければならないが、一旦建てると、建物は長い期間にわたって存続し長期にわたり影響を与えますので、これからの子供の数の変化とか、地域の住民のニーズとか、それらを十分検証する時間は持って慎重に計画を策定していただきたい。このような疑問や要望に対して、現時点での町としてのお考えをお聞かせいただきたい。

(子育て応援課長)

ありがとうございます。

現在資料の方で180人と出てきたり200人と出てきたり、この差につきましては、180人から200人程度というようなことをあちこちで使っておりますけれども、かえでこども園、つばきこども園と同等の園を野田川地域にも整備していきたいということでございまして、180人という数字が出たり、200人という数字が出たりしておりますが、かえでこども園、つばきこども園に合わせるということであれば180人でございます。

ただ、資料の3ページの入所希望者が200人を大きく超える場合というこの想定でございましてけれども、令和9年度の開設を現在のところ目指しております。令和9年度におきまして野田川地域でこども園への入所を希望されるであろう方が200人程度はいらっしゃる試算をさせていただいております。

ただ、0歳から2歳であったり、他の民間の幼稚園や保育所を選択される場合も考えますと、200人全員が今から整備させていただこうとしております野田川地域の認定こども園を希望されるのかどうかにつきましては、まだ未定の部分がございます。しかしながら、200人程度はその対象者がいらっ

しゃると考えまして、200人をもし大きく超える希望があった場合につきましては、現在稼働しております3園のうちの1園を期間限定で継続する方法があると考えております。

ただこの時点では、今の我々の考えておりますとおり、石川保育所周辺に建てることができましたら、以前の石川保育所につきましてはもう取り壊しておりますので、現在の山田保育園か野田川こども園を期間限定で継続して運営して、この石川に建てようとしております認定こども園の定員を大きく上回る場合、かつ保護者が希望される場合は期間限定で継続することは考えられるかなという方法の一つとして考えております。

ただ今●●委員さんの方からは、たくさん問題をいただいたとっておりますので、1人でも多くの方にご納得いただけるように、これからもたくさんご意見をいただきまして、何とか子どもたちにとって、子どもたちの育ちにとって、今の代でこども園、つばきこども園と同等の環境が整備できるこども園ができるように考えていきたいと思っております。

(●●委員)

私たちは町の財政面も慎重に考えざるを得ないです。先日、全国地方自治体の令和4年度決算集約がされ、財政指標比較が出ておりますけども、これまで私達は夕張に次いでワースト3位だと思っておりましたが、先日の発表ではワースト2位になっているという、それほど厳しい財政事情になっている。認定こども園を1箇所統合した場合は新たに広大な土地を必要とする訳ですから、その買収費、石川保育園は国道沿いですから地価も相対的に高い、その辺りの新たな財政的な負担が増大する。現在ある保育園を活用するのであれば、そういった新たな土地取得の費用は発生しない訳です。もちろん建て替えとか、その建て替えの間の期間の子供たちの保育の場の保障とか、その辺りは十分対応していかないといけないけれども、大型の認定こども園1箇所を整備することで、今の厳しい与謝野町の財政状況がさらに厳しくなるのではないかと、その先には野田川地域の小・中学校の再編という大きな課題もあり、大型の財政出動を伴う事業が今後5年10年と続いていく中で、新聞報道によるとここに12億円もの大きな投資をすることが今後の町財政の行方に重大な影響が出ないのかなど、町民の多くが心配していると思います。要望としては財政面も含めて十分慎重に検証していただきたいということをつけ加えたいと思います。

(委員長)

ありがとうございます。その他、もしかしたらご意見があるかもしれませんが、今日、他にも議事がたくさんございますので、この議題につきましては以上とさせていただければと思いますけれども、委員の皆様から大変重要なご意見を賜りました。それをお受けしまして少しでも私からもコメントさせていただきたいと思っております。

既にご説明がありましたように、あの場所、それから具体的なスケジュール、そして整備されるまでの期間に、各所への丁寧なご説明、関係者の意見を聴取するようなプロセスについてもお示しいただきましたので、我々としては、これからの進捗状況を見守らせていただく過程の中で、一つ重ねてお願いしたいことがあるとするならば、先ほど●●委員からもお話がありましたけれども、やはりせっかくなのでこういう形で整備されていくということになりますので、お子様や保護者の皆様はもちろんな

んですが、地域の方々にとっても、本当に素敵なこども園を整備していただきたいと思っておりますので、各所で今も現在進行形でやられていると思うのですが、丁寧なご説明をされるだけでなく、できればその各所で、しっかりと関係者の方と対話をしていただきたいと思います。役所が開催する説明会というのは質疑の時間を設けても、なかなか意見を出しにくい雰囲気があったりとか、そういうことも多分あるのではないかと思います。できるだけご意見を出しやすい雰囲気づくりということにも気を配っていただきながら、一方的に説明するというよりは、より良い、みんなにとって喜ばれるようなこども園をつくるには、どういうふうなこども園になったらいいのかということ率直にいろんな意見を聞かせていただけるような、そういう場づくりを繰り返し各所で行っていただければと思います。

そこを出して頂いた意見は全て叶う訳ではないんですけれども、やはりそういった声をできる限り精査しながらも、こども園づくりにしっかりと役立てていくと。そういうことが非常に大切だと思いますので、その辺りは重ねてぜひお願いしたいなと思います。

それから最後に●●さんの方からの財政面への懸念についてもご指摘がありましたけれども、これに関しましては、先ほど事務局からもご説明ありましたように、町としては、基本的には定めております財政計画から大きく乖離しないような形での建設ということを念頭に置いて、シミュレーションされているということでございますので、その辺りはまた詳しくはですね、ちょっと機会を別にしまして、私も含めて説明させていただければと思っておりますので、本日のところは、あくまで今の計画というのは、財政計画を基本的に堅持するような形での計画になっているということで、その意味では、大きなご懸念はないという前提で、ご理解いただけたら良いと思っております。

この件に関してまだご質問やご意見があるかもしれませんが、先に次の議事に進めさせていただき、また後ほど、この件に関してどうしてもということがあればお伺いしたいと思います。

そうしましたら、議事の2つ目の産業観光施設および農業施設について、こちらにつきましてもまず事務局の方からご説明をお願いしたいと思います。

(産業観光課長から説明)

(委員長)

ありがとうございます。この検討委員会の中で、我々がこの案件で議論すべき論点みたいなことがあれば、それだけ教えていただけてよろしいでしょうか。

(産業観光課長)

私がここで一つ言いたいのは、観光施設というところを捉えますと、収益を求める施設、ここにつきましては、基本的には行政が所有して運営をしていくのではなくて、財政面等も考慮しながら、収益を求める施設につきましては、できる限り民間活力でしていきたいと。無償譲渡でありますとか、売却ですとか、そういった方向性で取り組む必要があると考えております。以上でございます。

(委員長)

わかりました。ありがとうございます。

前回のこの委員会でも、社会教育施設に関しましては初めて取り上げたということで、しかもそういった施設に関しましては、これまで我々が議論してきたような、庁舎だとかこども園の関係とかそういったものと違って、計画とか基本的な方針みたいなものが過去に定められている訳ではありません。個別の施設について、それぞれどうするかということが総合管理計画の中で示されてはいるんですけども、全体的な方針みたいなことについては、必ずしもまとまった形で定まっていないというケースでございますので、今の担当課の方からご説明いただきましたように、この種の施設に関して、まずどのような方向で管理運営していくのかということについて、少し皆さんの方からご意見を頂戴するというような形をまずは取らせていただきたいというふうに思います。

冒頭申し上げましたように、今日ちょっと学校の方がメインとして時間を取らせていただきたいということもございますので、今ちょっと私の方から提起させていただいたような形でもし委員の皆様からご意見やご質問があればと思っておりますけど、今担当課の方も何かを発言されようと言われてましたですかね。

(農林環境課長)

同様に農林環境課が所管しております施設につきましても、方針としては今産業観光課長が申し上げたとおりで農林環境課の方も考えておりますので、委員の皆様方にご意見いただけたらと考えております。

(委員長)

ありがとうございます。

農業施設の方も同様にとということでございました。

おそらくその収益施設にカテゴライズできるような施設に関しては、基本的に民間活用ということで進めていくのがいいのではないかと原課としてはお考えになられているということでございました。●●先生よろしくお祈いします。

(●●委員)

ありがとうございます。

今の民間活用の件で1つだけ伺いたいんですが、表の中にもう既に検討とか、具体的に動いてるものはそのまま全然問題ありませんが、ご説明があったけれども民間活用を検討していくというお話があったんですけど、具体的に何かそれに向けてのアクション、例えば民間の企業に向けてサウンディングをしてるとか、あるいはこれからこういうふうになっていくつもりだという何か方針が既にあれば、1つ1つの施設は必要ないんですけども、大体どういう方向でやっていくのか、民間の企業もこういう情報をどんどん欲しがってるんです。ですから、それをもっともっと民間にいろんな形で流す仕掛けをどんどん作っていかないといけないと思うんですけども、その辺りのお考えがあったらお聞かせ願いたいという点です。以上です。

(農林環境課長)

失礼いたします。農林環境課なんですが、今実際1つそういった方向で進めている施設がございます。それはリフレかやの里でございます。この施設につきましては、民間活力の導入ということで、民間事業者から提案を受ける、この方法を今年度に行っていきたい。その公募によってその相手方と対話を通じて持続的な運営ができるというような合意点を見出した上で施設を改修をし、その選定しました民間事業者に運営を委ねていきたいということで、令和7年度の再開を目指してそのように進めているというところが1例でございます。

(●●委員)

是非いろんなチャンスを見つけて、民間にいろんなアプローチしていただくといいと思います。面白い展開が開ける可能性も出てきますので。私、外から見てて与謝野町のいろんな施設、レクリエーション関係の施設ものすごい魅力的に作れるんじゃないかと思うんです。ですから、民間の知恵をもっと借りると面白いんじゃないかというふうに思います。以上です。

(●●委員)

1点だけ情報提供、提案です。行政の公共施設を巡るキーワードの流行りの中で、最近「トライアルサウンディング」という手法を見かけるようになりました。これまではサウンディング市場調査みたいな文脈で、民間募集するというものが多かった訳ですが、いきなり募集しても、使えるかどうかは使ってみないとわからないというのが実情だと思います。ですので、いわゆる試着とか試飲、あるいは試食があるように、ある一定期間、例えば1ヶ月とか1週間とか2週間とか期間を決めて実際貸し出す、というのがこのトライアルサウンディング制度です。自ら使っていた上で、最終的に売却、あるいは賃貸とか判断いただくという手法ですね。

私の住んでる街でも今年3月ぐらいでしたか、市の保育園とか小学校とか、山の家などを対象にトライアルサウンディングをして、30人ぐらいが集まったと聞いています。先ほど●●先生がおっしゃったとおり「使ってみたい」という漠然としたニーズは結構あつたりしますので、ポイントは、北都信用金庫さんとか京都銀行さんなど、民間企業さんと常に繋がっている地域金融機関に仲介をお願いして、民間事業者に集まってもらったりPRをしておられることかと。やはり行政だけだとPR不足になりがちでありますので、うまく民間と役所を繋ぐ地域金融機関をかましながら、トライアルサウンディング等々していけば、今日のリストの中でも使いたいという施設が見えてくるのではないかなと思います。以上、情報提供と提案をさせていただきます。

(委員長)

ありがとうございます。

具体的なご提案をいただきましたけれども、他の皆様から何かございますでしょうか？

●●さんお願いします。

(●●委員)

たくさん施設があつて、観光関係と農林関係ですかね。それぞれの施設はそれぞれの合併前の町がそのまちづくりのために建てられて、運営されて活用されてきた施設だろうと思うんです。

それで、それを民間の活力を生かしていくっていうのも1つの方法ですし、こういうことっていうのはまちづくりにものすごく関係してくると思うんです。そういった観点からすると、町がどういう方向性で行きますよ、こんなまちづくりをしていきますよと町が方向性を出されるものではないんでしょうか。我々がああした方がいい、こうした方がいいというのもいいですけども、与謝野町がこういった施設をこういうふうにしていって、こういうまちづくりをしていきたいんですということと言われるような内容ではないかなと思うんです。

それに対して、そう思うんだけど、どうでしょう、とかどんなやり方がありますかねというのを我々が議論するのかなと思うんですけど、これをこういう施設でこういう方向で進め方というふうなことなんですけど、なかなかこれをああしなさい、こうしなさいっていうのは難しく、与謝野町の町長を初めとする執行役というんですか、そちらの方で与謝野町こういう町にしていきたいんだというふうなことを検討されるような内容ではないかと私は思うんですけど、委員長どうなんでしょうか？

(委員長)

●●先生が手を挙げておられるので、●●先生どうぞ。

(●●委員)

おっしゃる通りで、町が方向性をどんどん示していければそれが一番いいと思うんですが、残念ながら中々そういうことに至らないことが結構あるんです。

例えば西粟倉村という、今やもう日本で一番環境の素晴らしい先進地の村ということで注目されている村があるんですが、村がそんなにいろんなことを環境でやろうということ、ガンガンやってた訳ではなくて、ある企業が入っていった、そこで企業がいろんなことをやり始めたら、それに従って町のいろんな方針を作っていこうということで動いてきているんです。

それから岡山県に真庭市という市があるんです。そこは市が割と主導でやってるんですけども、元々再生可能エネルギーを一生懸命取り組んでた木材関係の企業がありました。そういったところを中心にして、どんどんこう広がっていったというようなことがありますので、町だけがとにかく方向性を出せばいいというのではなくて、民間がやりだして、それいける、ということになったら、みんながまたそれに取組んで方向性を作っていけばいいと思うんです。今、その方向性を町が出さなければいけないということを言い出すと、きっと今の状態だったらもう10年経ってもできないです。だからとにかく、民間で何か面白いアイデアを出してくれるところがあったら、とにかくそこを信用して、とにかく一生懸命やってみると。さっき●●先生がおっしゃったみたいに、本当にトライアルで見ると3年トライアル、5年トライアルですね。それでとにかく頑張ってくださいっていうような形でみんながバックアップして、これ面白いなとなったらまちづくり全体の動きに繋がっていくんだと思うんです。

もう一つ、私一度事例を示した紫波町のオガールもそうなんです。オガールなんて10ヘクタールも土地が余っていてどうすると。町が方向性を作らずしてできる訳ないだろうとずっと言っていたのに、あそこでこれをやろうと民間企業を作って、それでやり始めたらあんないいものができてしまったっていうこともあるんです。だから、いろいろです。間違いもあり、やりましようと言ってうまく

できる場合とそうでない場合の両方あるので、まずは町がというのではなくて、民間でもとにかく自分たちが何か出資してでもやりましょうというようなことができれば、面白いなと私は思っています。さきほどの●●さんの否定ではないですよ。理想は、ちゃんと示せば一番いいんですけど、両面でやらないと動かない。それだけです。すいません。

(委員長)

はい、ありがとうございます。

チャットの方に●●先生も、徳島県の神山町だとか、鹿児島県の鹿児島市も同様に民間主導で地域づくりが進んでますよというふうなご紹介もしていただいております。

今ちょっと様々ご意見を頂戴して、その前に●●さんから私も振っていただいたので少しコメントを加えさせていただきますと、結論から言うと、最後は●●先生におっしゃられたように両方大事だと私は思います。

民間主導でどんどんやっていただけるってということで町が引っ張られて良い方向に進むというということも当然考えられると思うんですけども、ただ他力本願ではやっぱり駄目で、町の方もそういう民間に全てを委ねるといふようなことではなくて、町としてどうしたいのかという姿勢や方向性を示すということも、やはり重要だろうと思いますので、今日観光関係あるいは農業関係の施設のお話を聞いていますと、個別施設をどうするかということについては、ある程度方針が示されているんですが、与謝野町のまちづくりの方向性との関係で、観光施設だとか農業施設ってのはこうあったらいいよねっていう大方針みたいなものが、やはり町としてもあった方がいいんじゃないかなと。今日担当課の方からご説明ありましたように、例えば、収益性の高い施設は民間に委ねていくというような方針がないんじゃないかというお話もありましたけれども、それもですね、全面的に委ねるって言うだけじゃなくって、町として、そういった施設が民間に委ねられるとしてもこういうふうな方向で民間が牽引してくれたらいいなということをお示しになるとかですね。自由にやってください、みたいなことではやはり良くないのかなと思いますので、民間が主導になってもいいんですけども、町とうまくコラボレーションできるような方向性、観光施設や農業施設は、やはりまちづくりとの方向でこうあるべきじゃないかという大方針をちゃんと持つておくって言うことは、やっぱり大事ではないかなと思います。

基本的には私は性善説なんですけれども、ある民間が入ってきたことで掻き乱されるということも無い訳じゃないので、そういう意味ではやはり両方一体的に取り組んでいくという方向性がいいんじゃないかなと。そのときに民間が非常に協力的で町の方向性とも整合的だというときに、町としても、バックアップできるようなことがやはり必要だと思いますし、もっと言えば、そういうことを邪魔してはいけないといいますか、いい方向でやっていただこうというところに茶々を入れるような形でもいけませんので、そういう一体的な取り組みに繋がるような大方針というのを町としても持つておくべきではないかなと思います。ありがとうございました。

この案件に関しましては、ちょっと今回初めてご説明いただきましたし、先ほども言いましたように特に大きな方針とか、あるいは具体的な計画みたいなことをお持ちの施設ではないですので、そう

いう意味では今日ちょっと申し上げたようなことを今後ご検討いただいた上で、●●先生や●●先生の方からご提案のあった民間に対して声掛けをしていくという、そういうことも同時にご検討いただけたらなと思います。

もしこの件に関して追加的なご質問やご意見がなければ、次の議事に移らせていただきたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

議事の2つ目については以上とさせていただきます。

そうしましたら、3つ目にご議論いただきたい子育て施設（学校）についてということで、まずは担当課の方からのご説明をお願いしたいと思います。

（教育委員会次長から説明）

（委員長）

ありがとうございました。そうしましたら、早速、皆様の方からご質問・ご意見をお願いしたいと思いますけれどもいかがでしょうか？

（●●委員）

ご説明をしていただきましてありがとうございます。小学校と中学校を同時に考えるっていうのがちょっと難しいということがありましたが、1ページの小学校の野田川地域においては、令和12年度以降が適正規模になる見込みですということがあるのと、中学校では12年度からちょっとした問題が発生しそうだとこのところがあって、可能な限り急ぐべきと強く指摘されているということもあるんですが、それを考えるとちょうど12年・12年でいいのではないかって聞いていたんですけども、それがどうなのかなと思ったのと、それから江陽中学校を使ったらどうかという意見に対して、小学校は12学級プラス多機能な教室が4教室必要だから、15学級に対応してもちょっと足りないということだったんですが、私は素人なんでよくわからないんですが、例えば1学年が30人とか20人とか30人とか入れる規模の教室ですよね。その教室を2つに分けるとすると、教室が増えますので、そういうことが法的に何平米以上ないとあかんというのがあるのかどうか分からないですけれども、もしそういうことができるのであれば、例えば2人とか3人の学級があるとすれば、それを半分にして足るのか足りないのかっていうことがあるんですけども、何か改善ができないのかなと思って、聞いていたんですが、そういう可能性があるのかどうか。

それからこれは●●委員が言われるのかもしれないですけども、以前に小学校の先ほどありました低学年は近くに行って、というようなことですが、そういうことの対応っていうのは、ここには大きな目的として、低学年における統合校への通学の負担軽減ということがあるんですけども、確かにそれもそうなんだろうと思うんですけども、●●先生がおっしゃったのは、子育てしやすいまちという部分においては、ただ減らすんじゃなくて、潰してしまったらもう建てることはできないので、せつかく今ある小学校を存続しながら、なおかつICTを活用して、そういう格差をなくすような、そ

うことがもしできるのであれば、他所の地域にない与謝野町独自のまちづくりというのができるんじゃないかと、そういう部分も大きくクローズアップされて話をされてたように私は記憶しているので、そういうことを含めても、ここに書いてありますように、今まで検討されても取り組んでいってしまるところがないとか、分校方式はこれまで採用されていた市町も現在はほとんどないと、そういう現実がある訳で、そういうのは、なぜそういうふうに至っているのかっていうのがこの列記してある学校行事の形態だとか職員の配置だとかそういうのが原因でそうなっているのか、また違う原因があったりするのかな、なぜそういう市町も現在では皆無ということになっているのかっていうことがもしお分かりになられるようでしたら教えていただきたいと思います。ちょっとたくさん言いましたけどよろしくお願いたします。

(委員長)

ありがとうございます。もし今の話に関連して●●委員の方から質問とかコメントがあるのであれば、併せてまず、コメントいただいてからまとめて答えていただくという形にしたいと思っております。どうですか。

(●●委員)

はい、わかりました。ご説明どうもありがとうございました。

おそらく現実的あるいは教育的な観点から考えると、このような整理にならざるを得ないのかなと理解はしていますし、理解はできます。

一方で、今●●さんの方からコメントありましたように、教育的な観点ではなく、例えば子育ての観点、あるいは移住定住の観点、産業、いわゆる子ども達の働ける地域を作っていくという観点、このような教育以外の観点からも小学校や中学校の持つ意味というものはとても大きいだろうというのが発言の趣旨でした。

したがって、最終的には、中学校は一つ、小学校もいくつかという話も含めて、そのようなどうしても減少の論理にならざるを得ないというのは、慣性の法則で理解できるのですが、もう少し視野を広げて考えてみることも必要では、というのが私の主張でした。そのためには例外事例がないからやらないということは理由にすべきではなく、むしろ必要だからやるかやらないかという議論をすべきでは、と思っています。

その観点から1つお尋ねしたいと思います。私も先般与謝野町で小学校中学校のコミュニティスクールの皆様向けの研修を担当させていただいたんですが、それぞれの学校の学校運営協議会で、例えばこういった問題に対して地域の方々の意見は聞いておられるのでしょうか、という問題意識です。つまり、先ほどのご意見は教育委員会のみ意見で全てなのか、現場では、少し違った観点の意見などが出ているのか、ということです。

次に出生数についてです。出生数の減少についてはなかなか抗えない状況にありますが、数字を見ますと、2000年に1学年270人ぐらい生まれていた与謝野町の出生数が20年間減り続け、2020年のコロナまっただ中では100人を切ったのですが、実は昨年度については104名まで20人ぐらい1学級分ぐらい持ち直してるんですね。これが政策効果なのか原因はわかりませんけ

ども、1年間でも持ち直した点には、素直に希望の光を見たいとは思いますが。

少子化の時代の中で出生数がプラスに転じるようなことが今後できれば、今日の議論ももう少し先送りができるのでは、ということもあります。すなわち、子育て政策と教育政策、本当にこれは常にセットの議論が必要でありますので、改めて子育て部門との話し合いの場を設けられているのかどうか、この点だけ追加で確認させてください。

(委員長)

ありがとうございます。そうしましたら、担当課の方、教育委員会の方からまとめてお答えいただけますでしょうか？

(教育次長兼学校教育課長)

まず●●委員さんのご質問からですが、小学校が令和12年、中学校も限りなく早く12年というようなことで一体的な整備をされたらどうでしょうかということですが、やはり経済的になかなか厳しいことを今現在も言われている中で、やはり財政的な観点も難しいところと、それから中学校のキャパ的にも先ほど説明させていただきましたとおり、単純に中学校が3学年15教室というようなことにはならず、特別支援学級とかそういった学級数も必要というようなことから、なかなか12年度一緒にということは難しいのかなと思っております。

それから2点目の江陽中学校だったと思いますが、これは小学校が12学級で中学校が15学級ということですが、これの中身は部屋割りができないかというようなことでしょうか、1クラスを2つに分けたりとかいうようなことだったですよね。その面積が文科省でどのぐらいの面積が必要なのかということで、通常のクラスについて何平米ということはおそらく決まっておると思いますが、今ちょっと資料等を持ってきておりませんので、その辺りの数字は正確には言えませんが、おそらく決まっているだろうと思います。それを二つに分けたときに何平米になるのかというのは、そこからまたさらに計算をしないと分かりませんので、これについては今即答ができません。

それから4つ目ですけども、小学校の低学年で一つの本校と複数の分校の話ですけども、これはそういった話ではなく、●●委員の方の話からしますと、ICTの関係だったということのようですが、ちょっとそのICTの方の中身の方が私ちょっと聞いておりませんので、ちょっとそこら辺はどういった中身だったのかというようなことについて教えていただいて、そこからまた更に調べてからのご返事になるかなと思います。1年から6年と1年から4年については教育委員会の考えというようなことで調べた結果がこういうことだったということです。

●●委員さんのご質問に対しては以上です。

それから●●委員のお話ですけども、コミュニティスクールの関係ですが、与謝野町が特殊なのかもわかりませんが、学校運営協議会の関係ですが、ここの所管につきましては、社会教育課が行っておりますので、今日ちょっと担当の方もおりませんのでどういったような話が出ているかというあたりについては、今のところ確認が取れておりません。

それから少子化についてというお話につきましては、また子育て応援課と協議をしていくということで今後検討をしていかなければならないと考えております。

私の方からは以上ですけども、補足の方を課長補佐からさせていただきます。

(学校教育課長補佐)

すいません。私の方からも少しお話をさせていただきたいと思います。

まず●●委員さんがおっしゃってました小学校、中学校この際、12年度に一緒にというお話です。確かに理想なんです。ただ中学校、一応適正規模として思っておりますのが、1学年3クラスで、これを今12年度でやろうと思えば4クラスになってしまいます。

実は江陽中学校は5クラス編成で建物がある訳なんですけど、現実にも今の利用状況を見させていただきますと、教室が余ってないんです。いわゆる昔からずいぶん様変わりしまして、きめ細やかな授業等で余りの教室を使っている状況ですので、ここで4クラス編成っていうのは、一時的といってもちょっと難しいのではと思っています。

それから教室を二つに分けてということですが、一応35人をマックスとして1クラスを考えていますので、基本的には分けることは不可能ではないかと思っております。

ただこの特別支援級について、二つに分ける方法があるのではないかとすることは、確かにおっしゃるとおりです。ただし、今現在では今は4つの特別支援級の性質に合わせてというのがありますが、今現在、特別支援級の定員があるので、これを考えますと8教室いるというようなことも考えていかなければならない。となりますともう全然オーバーしてしまうという問題がございます。

それから、学校の存続のお話です。先ほど●●委員がおっしゃってましたけれども、今の学校は存続しつつ、何とか維持していくっていうことができないか。それについては、分校方式へのICTなどを活用してということであるんですけども、やはり、存続させる以上は、見合った先生を配置しなければいけませんし、学校機能として成り立つような組織体制を作らなければならないと思います。

従って、教員の数が今現在でも不足状態にある中で、相当の先生の数を配置していかないと当然これは難しいだろうと。それから前々から申し上げます各学校の老朽化の問題もございますので、これらを存続するために維持していくっていうのは、これまた一つ大きな課題になるだろうと思いますし、それから何よりもICTだけで解決できない学校全体行事、例えば運動会だとか、そういった場合に、本校は1年から6年まで揃っているんですけど、分校は1年から4年までどうやって合同練習したり、どこでどういうふうな形で披露するとかいろんな難しい問題が生じてくると思います。

そういったことを考えますと、トータル的には今現在はまだ教育委員会議の中で見直し中でございますので、きちっとしたことは申し上げませんが、いろいろな問題が生じるということから、分校制については考えられないのではないかなというのが今の私どもの考えでございます。

それと、やはり学校についてよく言われるのが地域に密着したもので、なくなることによって地域が衰退するとか、いろんなお話がございます。ただあくまでも教育委員会としては、子供ファースト、教育環境というものを大事にしています。

そうした中で、後の学校をどう統合してしまっ、廃校となる校舎についてどう活用するのか、できればやはり子供たちがその後も使っていけるような、そういうふうな活用方法を見出すことが、今地域から学校がなくなるということに対しての解決策に繋がるのではないかとそういった思いも持っ

ておりますので、これは私個人的な意見になるかも知れませんが、そういうことも考えています。以上です。

(委員長)

ありがとうございます。おそらく最後の点に関しては、この委員会の見解としても同じことを思っていて意見として出させていただいていることではないかなと思います。議論を続けたいのですけれども、事務局に確認です。残りの時間を考えますと、庁舎の話は次回に回せたらと思っているのですが、そういうことは可能でしょうか。せっかく来ていただいているのですけれども。

(企画財政課長)

やむを得ないということで、担当課からは了解をいただいたところでございます。

(委員長)

申し訳ありません。今日メインと申し上げたこの学校の案件については、もう少し皆さんからご意見をお伺いしておく必要があるかと思っておりますので、そちらを優先させていただきたいと思っております。

今たくさんリプライをいただいたところですが、他の委員の皆様から、もしご質問やご意見あれば、お伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。あるいは今事務局からのリプライに対して、再度何かあれば、お伺いしたいと思いますけどどうでしょう。

(●●委員)

それでは、簡潔にエビデンスだけの紹介です。廃校をぐっと進めた町がいくつかありますけど、私が住んでいる町もそうで、2015年以降、16校を廃校にして、今何が起きているかを紹介します。

私が住んでいるまちが合併したのは2006年で、合併して17年経っていますが、小学校が廃校していく地域の人口減少率は中心市街地のそれよりも高くなっています。ただ、因果関係が逆になることもありますので、そこは要注意です。

具体的にいいますと、三和、夜久野、大江地域の人口減少率は2006年を100%とすると、現在62%から65%ぐらいまで減っています。実に4割減です。このままいきますと、早晚5割減ぐらいまでいくと思います。一方、市街地については、この20年弱で、人口93%から95%ぐらいを保っています。すなわち、明らかに一つの地域の中で人口の偏差が起きているということで、これはまず事実として危機的に感じていることです。

一方で、中学校の先に高校がありますが、高校再編の話も今京都府教育委員会が一生懸命展開しています。その議論の方向性を今見てみますと、基本的には学舎制、今の宮津天橋高校の宮津学舎と加悦谷学舎の方式ですね。これを何とか工夫しながら続けていきたいというのが京都府教育委員会の方向性です。つまり、今ある学校数はとにかく維持するということなんです。すなわち、ギリギリまで頑張って、学校の数は減らさないということですね。もちろん限界はありますので、高校の数もいずれは減ってくると思います。けれども、通える距離の中で、先ほどおっしゃった子供ファーストというのが私の意見です。子供ファーストで通える学校があり、子どもの声ができる地域がある。そしてそれが持続可能地域を作っていくという関係が大事だと思います。以上です。

(委員長)

はい、ありがとうございました。情報のご提供をいただいたということでございますけれども、委員の皆様から何かこの件に関してありますでしょうか？

この案件にもう少し時間をかけたいということではありましたが、そうは言ってももう残り10分しかないという状況下にありますので、あまり時間は取れないのですが、本日まだご発言いただいてない●●さんや●●さん、また副委員長の方からもし何かあれば、いただければと思いますがいかがでしょうか。

(副委員長)

非常に難しい問題だなと思いながら聞かせていただきました。実際に適正規模、適正配置ができるのが12年以降というようなことも述べられているんですけども、実際のところ、僕らも考えるのに、少子化はどんどん進んでいく中で、現実には今の学校を維持していくこと自体が厳しいのかなと思いつつ、じゃあどうしてまちづくりをしていくのかという話もあると思うんですけど、やはり基本的には財政とどう結びついていくかなっていうことを、もう少ししっかりと見ていきたいなと。また財政の今日話は全く出てなかったんで、12年以降ということで、給食センターが作られて、こども園を作られて、今度またその小学校の問題、庁舎の問題となる中で、やはりその流れの中では、きちっと財政計画というのが基本になってくるのかなという気がすごくするんですけども、それ以前にやっぱり教育というのは本当に根源なんで、しっかりと中身を見つめていかなあかんのかなというのは今日本当に思ったんで、財政ばかりのこと言っても仕方ないかなと思いました。ひとつ、そういう面も含めて頑張って財政計画もしっかりとやっていただけたらと思います。

(●●委員)

資料を拝見しまして、難しい理由はこれなんですっていう説明だったかなと思うので、まだそうかと納得するだけで、何も言えないのかなっていう気がしています。

ただ先ほどの子供ファーストっていうことを考えると、私の知ってる話ですけども、近隣の市町では本当に減少して一つの学校で10何名という学校があります。お聞きすると、本当はその地域の学校に行くはずなのに、親が送迎するなら他校に行ってもいいみたいなことがあるらしく、実際そうされてる家庭がいくつかあると。だから余計にその学校の生徒数が減るみたいなことも起こっているのを聞いたので、やはり親としても、子供に多様な中で学ばせたいという気持ちがあるんだろうなっていうのはちょっと感じています。

(委員長)

ありがとうございます。

●●さんの方から何かございますでしょうか？せっくなので一通りと思いましたが。

(●●委員)

確認なんですけど、中学校の方で適正な時期というのは、12年度に加悦中学校で1クラスになる時期があると。全体のあのクラス数を考えたときには15年度が適正だというふうに考えたらいということですね。その間財政的な運営も、それを踏まえて計画的にしていくということは当然必要になっ

てくるかなと思っています。ただ、この時期に重なっていくのをシミュレーションしてみないと分からないんですけど、計画予定だけでもかなり大きな事業が重なっていくので、厳しい状況であって、先ほど子どもファーストという意見が出ていましたが、本当にその適正な時期にスムーズに統合できるのかなと。本当に今から約10年あるんですけど、その間しっかりと計画を立てていただく必要はあるかなと思いました。何か物事を公表するときに突然ということは、町民の皆さんが戸惑われるということはこれまでであったことですし、今も決定していないのに決定と伝わると混乱しますよというようなことをご意見として出ているようにも思いますので、引き続き教育機関関係も丁寧に説明していただくこと、少し早めにこういう事態が将来起きますよってということは関係する方たちに早めにお知らせをしていく必要もあるのかなと。これまでいろんなことの経過を考えますと、時間をかけてと言いますか、それを前倒しにして、必要なときが来たらそのときに急に説明しますではなく、いずれこういう事態になりますよということは、早めに皆さんにお知らせして町民の皆さんどう考えられますか、対策をみんなで一緒に取っていく必要がありますよね、というような町の一丸となった機運に高めていけたらなと。関係するところだけが頑張って急にこうなんで、と一生懸命言われても、なかなか町民の方、そして特に自分に直接関係ない方っていうのはどうしても関心が低くなります。そういう方々にも、今の本当に厳しい町のあり方というものをお示しして、本当に事実をきちんとお伝えして行って、そしてそれに即した対応、町民の方おひとりおひとりにもこれからは覚悟を持って臨んでいただくようなこと、ちょっと厳しいかもしれませんが、その覚悟の中には夢を持っていただきたいということもあるので、どうしたらいいのかということを実際に町民がこれからは考えていく、そういう時代になっていくのではないかなと思いますので、そういう方向性というか、うまく誠実にちゃんと情報を伝えていくということが大切で、その積み重ねが大事ではないかなと感じています。

(委員長)

ありがとうございました。では一通りご発言いただきましたので少し私の方からコメントさせていただきます。

本日この教育施設(学校)については我々が第1次答申としてお示しさせていただいた意見に対して、教育委員会としてはこういう考えを持っていますということをお返しいただいたということでございます。

我々がこの委員会の中で度々議論になったのは、我々としては町の中にある、あらゆる公共施設の全体最適というものを常に見据えながら考えていかなければいけないというそういう立場で議論を重ねている訳ですが、しかし昨年度に関しましては、子育て施設、特に保育園・こども園、学校施設、庁舎と、この3つの案件に関してかなり集中的に議論させていただいたんですけども、やはり我々としてはそれぞれの前提となることを十分に把握しきれなかったこともあり、担当課の皆さんと対話することなしには、なかなかこれ以上の具体的な議論を進められないということで、今回第1次答申として我々が意見として示させていただいたことに対して回答いただいていると。またその後の議論の進捗状況についても共有していただいているという状況にあるかと思っています。

今日も様々意見交換させていただきましたけれども、まだしばらくこの学校についても対話を重ねていく必要があるのかなと思いつながりながら聞かせていただきましたし、また適宜、節目節目で情報の共有をしていただきながら、我々とも対話を重ねていただければと思います。

今日何かこの学校について、委員会としての意見をまとめるということはなかなか難しいと思えますけれども、そういうことを少し継続的にやらせていただければと思います。

その上で、副委員長の方からもご指摘がありましたけれども、財政計画の観点で考えていかなければいけないというのは全くおっしゃるとおりですし、全体最適を考えるこの委員会の役割からしても、その観点なしには、こうしたらいいんじゃないかということの議論もやはり限界があると。ある程度現実を見据えながら意見を述べていくということをやらないといけないということで、おそらく次回この委員会を開催させていただくときには、財政計画についても少し皆さんと情報共有した上で議論を重ねることができるのではないかなと思っておりますので、そのときにまた改めてそれぞれの施設のあり方、あるいは町全体の施設のあり方について、再度検討していきたいと思っております。

今日はこの程度で時間が来てしまいましたので、終了とさせていただきたいと思えますけれども、これだけちょっと言い残したというようなことで、ご発言したいという方がいらっしゃればそれだけ最後にお受けしたいと思えますが、いかがでしょうか。

(●●委員)

先ほど先生の方から徳島県神山町いうところが出ましたけど、私達もちょっと野田川区長会で視察に今月行ってきまして、やはり民間の活力がまた人が人を呼び、民間がまた民間を呼ぶというような形でまちづくりがされているということで、やっぱり一つ施設でも民間の方が入ってくればまた動いてくるんじゃないかなと。そこを起点にまた動いたりするんじゃないかなと思って、どんどん民間活用、売却したりして、民間に入っていくことは大いに重要なことだと思っております。

以上です。

(委員長)

ありがとうございます。情報のご提供をいただきまして、また改めてそういった情報も共有していただければと思います。公式の委員会だけじゃなくて、本当に雑談レベルでも、隙間時間でも共有いただけるとありがたいなと思えます。

そうしましたら、一応議題の方は(5)その他というのがあるのですが、これは事務局の方から何か連絡事項がありますでしょうか。

(事務局)

はい、ありがとうございました。事務局からの報告としましては、年間スケジュールをつけさせていただいておりまして、第4回につきましては1月下旬の予定とさせていただいておりましたが、役場庁舎の関係もございましたし、またその他もろもろの話もお聞きしましたので、こちらについてはまた委員長とご相談させていただきます。ただ1月下旬については開催させていただくということで、また改めて日程調整をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。以上です。

(委員長)

ありがとうございます。

すいません、今日全ての議題を消化しきれなかったこともあり、予定よりももう1回追加させていただくようなことになるかもしれません。その際には、ぜひご協力いただければと思います。

そうしましたら、最後に閉会の挨拶ということで副委員長の方から一言いただきたいと思います。よろしくをお願いします。

(副委員長) 皆さんどうもお疲れさまでした。今日各課の課長さんがお見えになって、総務課長さんだけ発言がなかったということで残念でしたけど、また次回よろしくをお願いします。

今日も聞いてて思ったんですけど、我々大変な役をいただいているんだなと思いながら、やはりその町民の代表であるべき存在なので、もう少ししっかりと町民の方の意見を聞いていかなあかんのかなと思ったんですけども、アンケートというのは結構書いてあったんで、しっかりとやっぱり町民の方にもいろんな部分でそのアンケートを取っていただいて、町民さんの意見がしっかりと表に出たらそれが進むべき方向になるのかなと僕も思ってますし、実際のところ本当に財政厳しいんですよっていう先ほど●●さんの方からもあったんですけども、僕もワースト3だと思ったら、ワースト2だと言われてすごくショックだったんですけども、やはりそういうようなこともあるので、そこら辺もしっかり町民の方と一緒に共有しながら、アンケートや、それからいろんなホームページ等で報告されてもいいんですけども、お年寄りはなかなかそこを見れないので、何か違う方法を使っていたりしながら、我々と一緒に町民の方もマネジメントをしっかりとやっていけたらなと思いますのでよろしくをお願いします。

委員長、それこそ●●委員も●●委員も、こういう形で参加をしていただけるっていうことで、我々も結構慣れてきたんで大丈夫ですので、これでいけるのではないかなと思いました。本当に今日ご苦労様でした。

(委員長)

そうしましたらこれもちまして、本日の委員会は終了とさせていただきます。

皆様遅くまでお付き合いくださいまして、ありがとうございました。

また、よろしくお願いいたします。

以上